



平成 25 年 3 月 1 日 第 2 卷(第 46 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F
災害対策本部 TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail:dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目 次

1. 現地支援活動報告
2. 現地感想文
3. 災害対策本部からのお知らせ
4. 事務所感想文



*** 1. 現地支援活動報告

活動期間:2013年2月16日~2月18日

中井 正江(群馬県 前橋赤十字病院)

3日間という短い期間ではありましたが、震災後に日常を戻しつつある方々に訪問、電話、来所等の形で関わらせていただきました。様々な生活問題を抱えながらも逞しくも淡々と(と見えるだけだと思います)生活されていることを感じました。全ての方がこちらからのアプローチに対しては好意的に受け止めていただき、これも今まで皆様の活動があったからこそのものであると感じました。

今回は、自分で車を運転しての訪問活動でしたので、“石巻市”の広さを、寒さを海の美しさを、怖さを、旬の魚を・・・肌で感じることができ、そこで暮らす人々のことが以前より少しだけ身近になりました。石巻市のお宅の居間の特徴も知りました(飾り戸棚が皆さんのお宅にありました)。

現地スタッフの方々におきましては、本当にいろいろお世話になり、ありがとうございました。お二人の支えで無事活動ができ大変感謝しています。

また、群馬から応援して下さった県協会の方々、職場を守ってくれた当院のSWに感謝申し上げます。少しの支援でしかありませんが、活動できたことを嬉しく、有難く想っています。

<参加を検討している方へのメッセージ>

検討だけなら誰にでもできます。いざ!行動へ!

遊楽館での支援後、すごく時間が経ってしまいました。

どうしてもっと早く活動しなかったのか後悔しています。

3日間でも大丈夫です。行けば行くほど石巻は近くなります。

*** 2. 現地感想文

*** 2/22 久保木 美由紀・富永 千晶(現地担当)

復興住宅の(40戸分)の申し込み状況が昨日の新聞に載っていました。申し込みは半数程度であったと。家賃の有無が依然大きな負担になっています。

仮設サロン会議では、仮設の自治会長からは仮設住宅への永住希望の方もいると話されていました。支援されることに慣れてしまったのか、それだけ厳しい状況なのか理由は分かりませんが、そういう思いでおられる方が少なくない現状が伺えます。

*** 2/22 川端 奈緒美(大阪府・済生会吹田病院)

今回初めて参加しました。ずっと「何か自分にできることはないのかな」と考えていただけに、今回このような機会を与えて頂き感謝しています。

実際に、被災を受けた地域に行ってみて、テレビで観ていた光景や想像していたものとは違い、はるかに凄まじく、自然の脅威に言葉を失いました。

今回印象に残ったことは、震災があったから「問題」が生じたのではなく、家族関係や元々の地域性等で何とか生活が出来ていたことが震災を機に表面化し、フォーマルな支援だけでは解決しきれないことを、インフォーマルな資源を活用して、皆で考えていく姿が印象に残りました。また資源に繋げることが目的ではなく、そのようなことが起きていることを知り、「一人はないよ」というメッセージを送ることの必要性も知る事ができました。

現地入りした当初は緊張のあまりガチガチになっていましたが、富永さんが言われた「何か特別なことをするのではなく、私たちはその人が少しでも幸せになれるようにお手伝いをする事だ」という言葉で、普段自分がしていることと何も変わらないのだということに気づき、少し周囲を見る事が出来るようになりました。

数人の被災者の自宅を訪問する中で、「自分には頼る人がいないので、訪問に来てくれるとうれしい」「震災に遭った時は生きていても仕方がないと思ったけれど、生きられたのだからこのまま頑張る」といった言葉から、「ここまで頑張ってこられたんだな」と思いました。

どちらかといえば、この3日間は私が教えて頂き、元気をもらいました。まずは私が見たこと、感じたこと、学んだことを持って帰り、自分の言葉で職場や友人、家族に伝えようと思います。

(活動期間：2月19日～2月21日)

*** 2/22 石川 加奈 (大阪府・介護老人保健施設ベルアモール)

一日目、震災の状況をお話やビデオを通して、そして、車で街中を走っている中で、実際に震災の爪痕を学ぶことが出来た。午前中は、RCIの活動ミーティングに参加でき、専門職や市民の方等チーム支援していることを実際に感じ、チームアプローチを進めていくにあたって、活発な意見交換の場になっていることを感じた。また、仮設住宅における相談支援会議にも参加でき、仮設住宅で生活する被災者の現状を知り、過酷な状況の中で生活をされていることを痛感した。実際に、仮設住宅で生活される方に会って、暮らしぶりや気持ちに触れる貴重な経験をすることが出来た。

二日目、三日目は、継続フォローが必要なケースの生活状況を確認するために、家庭訪問を行った。活動に参加するまでは、自身に何ができるのかと不安で、どのように声をおかけしてよいのか悩んでいたが、ソーシャルワークは災害時だから特別ではなく、“その方の話に耳を傾ける”、“受け止める気持ち”の大切さを実感し、ソーシャルワークの原点を見つめるものであることを改めて考えさせられた訪問となった。また、被災している地域を車で移動している際に、目の当たりにして言葉にならない胸の痛みとこのような悲惨な状況の中で生きていくことの被災者の気持ちを考えることが出来た。

今回の被災地支援を通して改めて気づいたことは、いかにソーシャルワーカーが、被災者自身が問題解決をしていくことを後方から支援させて頂く存在であるということだ。訪問した際に、不安や、もうどうでもいいという言葉聞きながらも、大変な状況の中でもその人らしく生きていきたいという力を一方で感じる事ができて、自分に何ができるのかと考えていたことに恥ずかしくなった。この悲惨な状況の中で生きてきた力を信じ、ソーシャルワーカーとしてどう動いていくのかについて改めて考えることが出来た。普段の業務においても、利用者とは真摯に向き合う姿勢を大切にして、ソーシャルワーカーとしての原点を見失わないようにしていきたい。

(活動期間：2013年2月19日～2月21日)

*RCI:石巻医療圏 健康・生活復興協議会

***2月23日 富永 千晶(現地担当)

今朝は、一面雪景色でした。久しぶりに、車の雪かきを出勤前に行っていい運動です。

石巻のぼーたるサイト「巻.COM (<http://is-maki.com/>) で『3.9 レターキャンペーン』を行うそうです。

このキャンペーンは、石巻市と共催で発災後に様々な形で支援をされた多くの方々に対して、石巻の現状をお知らせするとともに、石巻在住の方々がお礼の気持ちをお伝えするという主な目的としています。

住所がわかる人には、3.9の投函すると3.11に届くことも想定しているそうです。住所がわからない人は、このサイトからメッセージを発信することができるとのこと。私たちの協会あてにも、メッセージがあるかもしれませんね。

facebook にも、アップしようと思います。



*** 3. 災害対策本部からのお知らせ

【1.協力員募集】

*** 現 地

現在、1日あたり上限2～3名で募集しております。

中3日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害対策本部までお気軽にご相談ください。

3月の協力員さんの活動参加期間に若干の空きがあります。

ご都合の付く方、ご協力をお待ちしております！

2月中旬以降、ご応募されて活動に参加される方には簡単な資料を郵送しております。活動カレンダーを掲載しておりますので、ご覧ください。

*** 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが1～2ヶ月に1回でも構いませんので、ご協力をお願い致します。

【2.災害対策本部会議】

2月の災害対策本部会議は3月1日(金)19:00～協会事務所にて開催します。

【3.書籍販売】

『東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I』の販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録をまとめました。ぜひご覧になってください。尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。



*** 注文用紙はホームページからダウンロードできます。

http://www.jaswhs.or.jp/date/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

*現在『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンII』を発行準備中

【4.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしくお願いたします。

*** URL

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【5.YouTube】

現地での災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。YouTubeにアップしましたので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。



*** URL

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>

*** 4. 事務所感想文

*** 2/25 依光則子

バトンII編集のため災害支援ニュースや日報を読み返しています。協力員の方々の感想等から石巻勤務時に見過ごしていた事に改めて気付いたり、また市の状況の変化にもはっとします。今年の春先は震災から1年、同じ長さの日々を重ねてこの3月がやってきます。

*** 2/25 金子 小夜子

23日に石巻では雪が降ったそうです。
車の雪かきをしてから活動開始したとスタッフが伝えてくれました。
カラカラ天気のため最近ではマスクをして通勤しています。

東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 3 月 1 日 第 2 卷 46 号
作 成 群馬県医療ソーシャルワーカー協会



上毛カルタ：◎（鶴）舞う形の群馬県

（群馬県 前橋市前橋公園幸の池）